

## ②横浜はなフェスタと桜を満喫するコース

催行日 4月5日(水)

### \*横浜が開国港として選ばれた理由

100戸ほどの小さな寒村であった横浜港が開港されたのは、一人の幕府の要人の力でありました。その男の名は、幕府目付岩瀬忠震であります。当初の「日米修好通商条約」と開港場の建設でア



メリカ総領事ハリスが当初幕府に示した条約の草案には、神奈川または横浜の名ではなく「下田」でした。

それを知った岩瀬は、直ちに老中へ意見書を送り、横浜開港が、「天下の利権を御膝元に帰し、万世の利源を興し、中興一新の御鴻葉もこれに従って相立」<sup>29</sup>という積極的見解を示しました。幕府は、その意見書を採用し日米修好通商条約の交渉にあたり、ハリスの了承を取り付けたのです。

こうして神奈川開港は決定したのですが、「日米修好通

商条約」で明記されたのは「神奈川」とだけでした。その為に外国側の「神奈川湊」と、幕府側の「横浜湊」の争いとなってしまいました。

幕府は「神奈川」は神奈川湊(現在の神奈川区青木町辺り)、横浜港を含む神奈川湾の意であったと主張。横浜開港の準備を着々と進め、東海道筋から横浜への交通路に「横浜道」を開き、神奈川宿から洲乾弁天までの通船を開始。さらに、遊郭を日本人町の東南港崎町に設け、市街地「地税」免除などの積極的な勧誘を行い、移住商人を誘致してしまったのです。(写真：開港時の横浜港)



外国側は、あくまでも神奈川湊を固執しましたが、幕府が作り上げた既成事実により、当初の意向を変えざるをえなくなりました。1860年4月、神奈川奉行と各国領事との会議において、横浜開港は正式に外国側に承認され、国際的港・横浜港のスタートが切られたのです。

### ●居留地時代の山手通り



(左：外国人居留置、右：山手本通の洋館)

幕府は、通商条約を結んだ米・英・仏などの国民に居住と営業を許す地区として、「山手居留地」「山下居留地」を設定しました。それらの場所を不審者から取り締まる為に関所を設け囲いました。

その場所は、関所の中という意味を含め「関内」と呼び、その名は今も残っています。

この山手居留地域はイギリス、フランスの軍隊の駐屯地と居住地でありました。その関係で海外からの文化が満ち溢れ、当時の住宅の広い庭には草花や樹木などが植えられ、庭の周囲にはベランダを廻らせた建物が多く見られました。今でもその名残がある「港が見える丘公園からワシン坂」に至る周辺は高級住宅が立ち並んでいます。



「山手外国人住宅 明治中期」横浜開港資料館所蔵  
Home of Foreign Settler in Yamanote, Mid Meiji Period  
The Yokohama Archives of History



### ●アメリカ山公園

横浜開港期にアメリカ公使館があったことや、戦後にアメリカ軍に接収されたことなど、アメリカとの縁があることから「アメリカ山」と命名されました。



丸で囲まれた場所が「アメリカ公使館」

終戦後、山手97番地はアメリカ軍によって接収され、敷地内には米軍住宅が建設されましたが、1971年に返還を受け国有地となり、横浜市が国から用地を取得し、アメリカ山公園として整備され、2004年の都市公園法改正に基づき制度化された「立体都市公園制度」を適用した全国初の立体都市公園となりました。



アメリカ公使邸

幕末から明治初期にかけて横浜居留地では、アメリカ公使邸のようにベランダをめぐる洋風建築が多く建てられました。また、瓦を張り付けた海鼠壁（なまこ）や玄関の唐破風（からはふ）など和風の要素も強く見られます。

### ●港が見える丘公園



（写真：左がイギリス軍兵舎、右がフランス軍兵舎）

江戸時代末期は1862年（文久2年）に起きた生麦事件が象徴するように、攘夷派の浪人などによる外国人殺傷事件が少なくありませんでした。そこで英仏は自国民の保護を名目に、横浜居留地への自国軍の駐屯を決定。幕府もこれを認めました。



英仏の重要な軍事拠点となったのが、港の見える丘公園でした。1875年に両軍が同時撤退するまでの約12年間、英仏両軍は明治維新の混乱の中、下関遠征や横浜市中警備など、さまざまな軍事行動に携わっていました。

港の見える丘公園の中腹にあるのがフランス山、山頂あたりがイギリス山と呼ばれています。他に、道路を隔てた谷戸坂横あたりはアメリカ山、JR石川町駅横のトンネルの上あたりはイタリア山と呼ばれています。ただし、横浜開港以降も長崎の出島を根拠にして貿易を行っていたオランダも、函館を貿易拠点としていたロシアもありません。

時を経て1971年（昭和46年）、横浜市が現在の「フランス山」をフランス政府から購入、公園として整備し、翌1972年（昭和47年）に「港の見える丘公園」の「フランス山」区域として開園しました。

因みに「港の見える丘公園」の名称は、1948年に平野愛子が歌ってヒットした「港が見える丘」に由来します。

### <フランス山>

1863年にフランス海兵隊が駐屯したのが、現在の「フランス山」です。3000坪ほどの駐屯地



には兵舎三棟の建物が日本側の費用負担で建てられ、駐屯したフランス軍兵士は陸軍20名から始まって、300名以上を数えたといわれています。

その後、海兵隊当局がこの地区の借地権をフランス駐日外交代表サルダの設計により領

部に譲渡し、1894年にフランス人建築家

領事館と領事官邸が建設されました。この時に作られた領事館は、関東大震災で倒壊し、1930年にスイス人建築家ヒンデルの設計で再建されましたが、1947年に火事で焼失しました。

### ●横浜イギリス館(旧領事館)

イギリスは、仏軍の1年後の1964年、本格的な駐屯を開始。第67連隊分遣隊、砲兵隊、工兵隊、第29ボンベイインド人歩兵隊が来日し、現在のイギリス領事館がある地に約900名の陸軍部隊、530名の海兵隊が駐屯しました。

この地域は「トワンテ山」と呼ばれますが、これは駐留したイギリス軍の第20連隊の「トゥエンティ」の発音が由来であるらしい。



横浜イギリス館(旧領事館)は、そのトワンテ山に1937年（昭和12）上海の大英工部総署の設計によって英国総領事公邸として建てられました。

## ●大佛次郎記念館

横浜に生まれた大佛次郎（1897-1973）は、終生変わることのない愛情を故郷に寄せていました。没後、遺族から蔵書や遺品の寄贈を受けて、1978年（昭和53）5月1日、大佛次郎記念館が開館されました。



「鞍馬天狗」の作者としても親しまれ代表作には「パリ燃ゆ」「天皇の世紀」「帰郷」「赤穂浪士」などがあり、ここは「霧笛」や「帰郷」など、作品の舞台となった場所でありま。

所蔵する図書類は、遺族から寄贈された旧蔵資料、雑誌類に自筆原稿や書簡等の特別資料を合わせ、約7万点に上ります。

## ●神奈川近代文学館

神奈川県ゆかりの作家や文学作品に関連する肉筆資料、書籍、雑誌の収集、保存、展示を行う博物館と日本近代文学専門の図書館、講演会などを開催するイベントホールの三つの機能を併せ持つ総合文学館として神奈川県が1984年（昭和59）10月に設置しました。



所蔵資料には個人作家、収集家の業績を顕彰した井上靖文庫、大岡昇平文庫、尾崎一雄文庫、埴谷雄高文庫、武者小路実篤文庫など四十余の文庫と、夏目漱石資料など多くの独立したコレクションを

含み、稀少資料を数多く有する近代文学の資料館として内外から高い評価を得ています。

2009年度末で図書、雑誌、肉筆資料（特別資料）など所蔵総数は110万点に達しており、近代日本文学を専門とする国内最大規模の資料館です。

## ●ワシン坂と湧水

山手町から小港町に至る山手通りにあります。

ワシンの語源には和親条約のワシンから、鷺見坂がなまってワシン坂、ワシン（ウシン）という外人がこの付近に居住していたからなどの諸説があります。いずれにしても慶応2年に山手居留地に指定されているのでこの頃からの呼称と考えられています。

ワシン坂を降り切った右側に湧水があります。古くから市民の生活用水として広く利用されてきた由緒あるものです。水温は夏冷たく、冬暖かく一年を通じてほぼ安定しています。



## ●本牧山頂公園

日本来航時に横浜周辺を測量したペリーは、本牧十二天のオレンジ色の崖をその色から「マンダリン・ブラフ」、現在の本牧市民公園周辺の崖を「トリーティー・ポイント」（条約岬）と名づけました。また、本牧から根岸にかけての海岸（根岸湾）を「ミシシッピー・ベイ」と呼びその風光を愛したそうです。

そんな外国人に愛された景勝の地は、時を経て本牧は「小さなアメリカ」になってしまいました。それは、米軍による土地の接収でした。

終戦後間もなくの1945年8月31日連合軍最高司令官ダグラス・マッカーサー元帥が横浜に来ると直ぐに米軍による占領が開始されました。それは情け容赦なく戦火を免れ僅かに残った市街地の住宅、事務所、劇場、官公庁、学校、公園などの全てを奪い取ったのです。ごねる人は、民家ともどもブルドーザーで瞬く間に破壊して行きました。

進駐軍の命令所には、「言い訳無用」の看板まで掲げられました。



その占領は、1952年の日米行政協定によって無期限使用となり、よやく返還されたのは1982年でありました。

本牧の人々は、実に37年間に渡り占領下の中で生活をしてきたのです。



立入禁止の立看板

山手警察書前の米軍フェンス

フェンスに登って遊ぶ子供たち



米軍住宅街



接收解除式：星条旗と日の丸

本牧山頂公園は、米軍横浜海浜住宅地区が1982年3月31日までに返還されたことから、跡地を横浜市が公園として整備し、1998年に開園しました。総面積は22ヘクタールあります。



4つの公園（「本牧いずみ公園」「本牧せせらぎ公園」「本牧山頂公園」「新本牧公園」）と4つの丘（「ひぐらしの丘」「和田山の丘」「まきばの丘」「どんぐりの丘」）があります。

さくら広場を中心に数か所で咲き誇る桜は、2002年にワシントンDC（コロンビア特別区ワシントンの略語）から里帰りした桜から増やした苗木が植樹されたものであります。何か所にも点在するハナミズキは、日本からワシントンDCに友好の桜が贈られて100年を迎えたことから米国から「返礼」として横浜市にプレゼントされたものです。